

第6学年2組 社会科学学習指導案

場所 6年2組教室 指導者 白石 和真

1 単元名 皆が住みよい熊本を目指して政策を提案しよう（わたしたちの暮らしを支える政治）

2016年（平成28年）に18歳選挙権を実現する改正公職選挙法が施行され、日本において公職選挙の選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げられた。しかし、昨今の若者の投票率は未だに約30%付近と、決して望ましい数値ではない。これは、若者の現在の政治に対する無関心・無知であることが要因であると考えられる。つまり、国や地方の政治を他人事として捉えている若者が多いのである。本校の子どもたちに目を向けてみると、新聞やニュースで取り扱われる日本の政治に関する言葉は認識していても、その背景にある国の考え方や政治の在り方に着目している子どもはほとんどいない。

そのような子どもたちに、「日本の政治を動かしていくべきなのは国民一人一人である」という、認識を改めてもってほしい。政治が、国民主権の考え方の下で行われているということに気づき、政治の取組や在り方を多面的・多角的に追究していく子どもの姿を目指していく。

そこで本実践では、皆が更に住みよくなるための熊本を目指して、学校の児童や保護者等の意見を集約し、その意見を基に計画案を立てて、実際に熊本県庁の子ども未来課（以下未来課）にその計画書を提案する構想活動（以下活動）を中心に設定する。その過程で、よりよい政策を実現していくために大切な視点は何かを追究していく。この過程で日本の政治と国民生活とのつながりを自分事として捉えながら、自ら社会と関わり続けようとする子どもを育てていく。

2 単元について

- (1) 本単元では我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することをねらいとしている。

本実践では更に住みよくなるための熊本を目指して、学校の児童や保護者等の意見を基に計画案を立てて、実際に熊本県庁の未来課に計画書を提案する活動を中心に設定する。未来課は、少子化対策の推進や社会福祉の施行に関することなどについての業務を行っている部署である。そこに向けて計画書を提案する過程で、政策が実現するまでの流れを体験的に学ぶことで、国民の願いがどのようにして実現されているのか、政治の取組等について実感を伴って理解するだけでなく、そこに関わる人々の思いなどにも気付いていこう。また、子どもたちにとって、実際に国の政治に少しでも関わるができるかもしれないという事実は、今回の活動に対する責任感や高揚感を高め、政治を自分事として捉えるきっかけになるだろう。また計画書を提案する前には、クラスで議会を設け、精査した上で提案ができるようにする。

- (2) 子どもたちは、前単元で日本国憲法の在り方について学習している。本単元で国や地方の政治の働き等について学ぶことは、今後の歴史学習の政治の在り方の学びへとつながっていく。
- (3) 本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。（調査人数36人）
 - ① 政治に興味があると答えた児童は21名、ないと答えた児童は15名だった。後者の理由として「自分のためになるか分からない」、「今の自分には関係がない」などが挙げられていた。
 - ② 日本の政治をよりよくするためにはどのような視点が必要か尋ねたところ、「よくわからない」「特にない」といった抽象的な解答がほとんどだった。

3 単元目標

- (1) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することができる。
- (2) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することができる。
- (3) 日本の政治や国民生活との関連について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に課題を追究し、解決しようとしている。

4 指導計画（10時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子高齢化の対策として国や地方の政策に関する資料等を提示し、「国や地方の政策はどのように実現されているか」と問うことで、政治の過程や働きに着目させる。 ○ 「住みよさランキング」を提示し、熊本を住みよい街にしたいという思いを引き出す。そして「具体的にどのような街になれば、皆が住みよいと感じるだろうか」と問うことで、具体的な身の回りの社会的事象に着目させた上で、主題を設定する。 	<p>【主】日本の政治と国民生活との関連について、予想を立てながら活動に取り組もうとしている。</p> <p>（観察・振り返り）</p>
『皆が住みよい熊本を目指して政策を提案しよう』			
2 5 9	2 少子化対策等について調査し、計画書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の子どもや保護者へアンケート調査を実施したり、議会を設けたりすることで、実際に政策ができるまでの過程を体験的に学び、そこに携わる人々の苦労や思いなどに気付くことができるようにする。 ○ 計画書を作成すると同時に「よりよい政策を実現するための視点」を考えさせることで、自分たちの活動と政治の取組や働きを関連付けながら、多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ○ 一回目の議会を経て得た意見をもとに、政策を決定していく際に大切にすべきものは何かについて考えていくことで、新しく見いだした見方・考え方を基に、計画書を再考することができる。（本時7／10） 	<p>【知】政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することができる。</p> <p>（観察・計画書）</p> <p>【思】政策の内容や予算との関わりなどに着目して、政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを表現することができる。</p> <p>（観察・計画書）</p>
10	3 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未来課に計画書を提案し、評価してもらうことで学びを振り返り、今後の学びに生かすことができるようにする。 	<p>【知・思】要点をおさえ、まとめることができる。（振り返り）</p>

5 本時の学習

(1) 目標

議会を経て得た意見を基に、政策を決定していく際に大切にすべきものについて話し合うことで、政治を進めていく上での新しい見方・考え方を獲得し、計画書を再考することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
10	1 議会を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちは、交通渋滞緩和のためにバスの道路とか、運賃について考えていたよね。土地のこととか、予算のこととかについて色々意見をもらったよ。 ○ 道路を広げることで、不利益を感じる人も出るんじゃないかっていう意見はすごく納得したなあ。考えなくちゃいけない立場がたくさんあって難しいよね。 ○ 人とか立場によって基準が違うから、何を大切に政策を考えていけばいいのか分からなくなってきちゃった。
20	2 政策を決定していく際に大切にすべきものについて話し合う。 (1) グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちのグループは、子どもも大人も、できるだけ多くの人が安心して使用できる施設を提案する計画書を考えていたよね。何から見直す必要があるかな。 ○ どこに建設するのが曖昧だったよね。地図を見て、空きスペースも考えながら計画立て直さないよ。 ○ 手紙にもあったけど、政策は法律や条例を参考にして考えてみたい。建設に関する条例を調べてみようよ。 ○ 予算を考えることも大切だけど、そこに関わる人のことも考えなくちゃ。バスを利用する人、車を使う人、運転手さんのことまで考えることも大切なんじゃない。 ○ 僕は図にもあるように、法律や条例の範囲内で政策を考える必要があると思います。それが現実的だと思う。 ○ 何か一つだけじゃなくて、予算とか土地のこととか、関わる人たちのこととかをつなげて考えることが大切。 ○ 確かにそこも大切だけど、そもそも市民の声を第一に重視して政策を考えていくべきだと思います。
10	(2) 全体で話し合う。	
	3 計画書を再考する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かに。政策は市民の願いからはじまってるもんね。もう一回アンケート結果を見直してみよう。 ○ 私達の政策に関わりそうな条例を調べてみようよ。建設のことと、働き方の条例とかを調べるといいかな。 ○ A 班も私たちと同じ育児のことで考えていたよね。何をどういうふうに調べているか実際に聞いてみてる。
5	4 本時を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画書を様々な立場から作り直しました。政治は、本当に色々なことを踏まえて考えなくちゃいけないことを実感しました。最終提案に向けて頑張っていきたい。 ○ 今日私は、政策を実現するための視点に「法律や条例を基にして考えること」を付け加えました。その上で、市民の気持ちも考えながら政策を考えていきたい。



住みよい熊本の実現に向けて計画書を作成してきた子ども達。前時には議会を経て、様々な意見を得ることができました。本時ではその意見を基に、政策を決定していく際に大切にすべきものは何かについて話し合うことで、新しい見方・考え方を獲得し、計画書をよりよいものへと再考していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 議会で得た意見についてグループで話し合う前に、「予算」や「立場」等の具体的な視点や考え方から政策を見直そうと考えている児童の振り返りを紹介する。そうすることで自分たちの政策に足りない視点等に着目しながら議会の内容を振り返ることができるようにする。
- 議会で得た意見の中で、納得できたものについて発表させ、それらを視点として黒板に整理していく。その後、「人によって基準がかわるものがあるので、どうすればいいかわからない」と書いている子どもの振り返りを紹介した上で、「多くの視点がある中で、政策を決定していく時に大切にすべきものは何か」と問うことで本時の課題を設定する。

政策を決定していく際に大切にすべきものは何だろう。

- グループの話し合いに移る前に、住民の願いが実現されるまでの過程を表す図や、未来課からの手紙に立ち返るように促すことで、「法律や条例」、「関係者との協力」等といった新しい見方・考え方に着目することができるようにする。
- グループで議論する際は、今までのアンケート調査結果や前回の議会での記録等を基に話し合うように伝えることで、根拠を基にした話し合いができるようにする。
- 机間指導の際に、「政策を考える際には法律や条例をもとにして考える必要がある」や「予算や土地等様々な条件、そして立場を関連付けて考えることが重要だと思う。」等といった見方・考え方から話している子どもを見取しておく。その後、全体で話し合う際に、それらの子どもの発言を促すことで、よりよい政策を決定していく際に大切にすべきものについて、新たな見方・考え方に気付くことができるようにする。
- 全体で話し合う際は子どもの発言に「何を根拠に考えているのか」などと問い返したり、立場カードを活用してどの立場からの意見なのか整理したりすることで、子どもの見方・考え方を明らかにした上で、政治の在り方について多面的・多角的に考えられるようにする。
- 政策を決定していく際に大切にすべきものについて十分に話し合い、新たな見方・考え方を共有できた後に、計画書を見直す時間を設けることで、それらを基に計画書を再考できるようにする。その際、再考に難しさを感じている班がいた場合には、「アンケートにはどのような意見があったか」や「他の班はどのように考えているか」等と問い返すことで再考ができるようにする。
- 振り返りの前に、本時の中で明らかになったことや、新たに考えた「よりよい政策を実現していくために大切な視点」などを発表させ、共有することで、振り返りの見通しをもつことができるようにする。
- 様々な立場や新しい見方・考え方に着目して振り返りを記述している子どもを見取り、全体で発表させることで今後もそれらの視点をもって活動ができるように意識させる。

【教材・教具】

- 学習支援ソフト
- アンケート調査結果
- 調査資料
- 学びの足跡
- 未来課からの手紙

【評価】

政策を決定していく際に大切にすべきものは何について議論することで獲得した視点を基に、計画書を再考することができる。

（計画書・振り返り）

